

東芝エレベータ(株)

東芝エレベータ(株)は、ビルの高機能化、多様化する福祉対応あるいは環境にやさしい製品を通して、お客さまに満足いただける商品を市場に送りだすことに注力しました。

超高層ビルでは国内初となる“屋外形展望エレベーター”を開発し、ビル的美観向上に威力を発揮し、眺望優れたビルの交通機関として活躍しております。空港、駅などに多く設置されている“動く歩道”は、建屋側ピットのトラス深さを縮小し、省スペースで建築工事の軽減を可能とする、国内最小クラスの薄形トラス構造を実現し納入しました。

エレベーターの利用者及び管理者へ、運行情報や各種情報サービスを提供する最新のエレベーター情報表示・監視システムとして、新商品“インフォブライツ™”を納入し、動画や静止画表示などの多彩な情報提供を行っています。

取締役上席常務 統括技師長 久保 敏夫

屋外形展望エレベーター



屋外形展望エレベーター
Outdoor type observation elevator

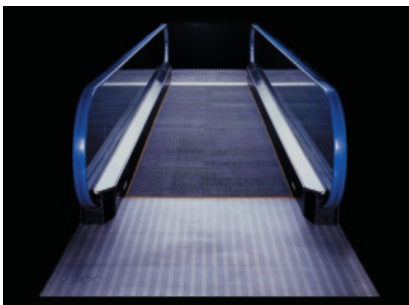
“屋外形展望エレベーター”は建物外観を際立たせ、かつ眺望に優れた交通機関として海外ではホテルや高層建築で活躍している。

六本木1丁目「泉ガーデンタワー」(総合監修：住友不動産(株)、設計・監理：(株)日建設)向けに定員17名、速度360m/分という、超高層ビルでは国内初となる屋外形展望エレベーター2基を納入した。

自然環境対策をはじめとする各技術課題を解決した。

- (1) 風によるロープなどの挙動及び乗りごち解析
- (2) さび防止対策及びかごや乗場の雨水侵入防止
- (3) 屋外に特有の運行管理と安全装置(かご戸ロック装置、落下物防止装置、ロープ振止め装置)

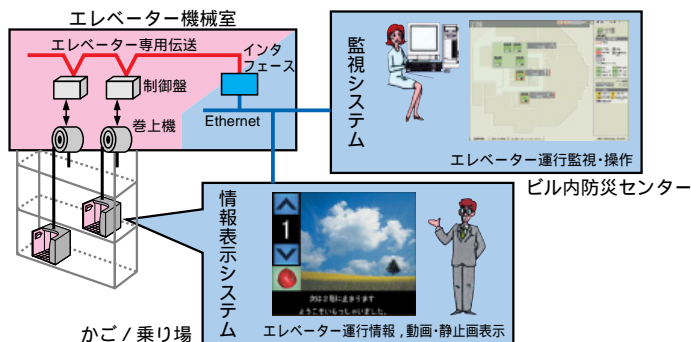
薄形動く歩道



薄形動く歩道
Thin type moving walkway

薄形動く歩道は、建屋側ピットに納めるトラス深さを縮小し、ピットの省スペース化とピット工事の削減を目的として開発した。踏板の奥行寸法を従来の1/3にし、駆動輪径を縮小するとともに、制御装置と駆動装置を小型化して世界トップクラスの薄形トラスを実現した。トラス深さは、両端部を550mm短縮(従来当社比48%)、中間部を200mm短縮(従来当社比67%)した。また、特殊形状ガイドレールの採用により踏板振動を低減し、乗りごちの向上を図った。2002年3月に成田空港へ初号機を納入し、現在、稼働中である。

エレベーター情報表示・監視システム インフォブライツ™



エレベーター情報表示・監視システム インフォブライツ™
InfoBright™ elevator information system

エレベーターのホールやかご内に各種情報を表示する情報表示システムと、ビル内防災センターで運行状態の監視や管制運転の操作ができる監視システムを統合した、エレベーター情報表示・監視システム インフォブライツ™を開発した。

主な特長は、次のとおりである。

- (1) 従来は文字表示のみであった情報表示に動画や静止画を追加したことにより、多彩な情報提供が可能
- (2) かご位置表示や停止階案内などをビデオ映像などと同一画面に分割表示することにより、視認性が向上
- (3) 監視可能台数の拡大(従来比4倍)により、超大規模ビルや複数ビル群への適用が可能